

# 磯浜地誌

(大正五年八月 関根 幹)

## 目次

一	位置
二	周囲
三	境域
四	地勢
五	気候
六	廣表面積戸数人口
七	官有地
八	御料地
九	民有免租地
一〇	私有地租段別
十一	市街
十二	區劃
十三	交通
十四	生業
十五	生産物
十六	神社
十七	佛閣
十八	名勝舊蹟
十九	著名ノ磯
二〇	官衙
二一	漁船數
二二	磯濱築港
二三	衛生
二四	兵事
二五	諸団体
二六	燈臺
二七	消防
二九	財政及資産
三〇	沿革

## 一 位置

東経 百四十度三十四分  
北緯 三十六度十八分

## 二 周囲

三里余

## 三 境域

磯浜町ハ東茨城郡ノ東端ニ位シ、北ハ那珂川ヲ隔テテ湊町ニ対シ、東ハ太平洋ニ面シ、正南ハ鹿島浦ヲ以テ遙カニ銚子港ヲ相望ミ、近ク鹿島郡ト相對シテ一小湾ヲナス。之ヲ袖ヶ浦ト云フ。西南ハ大貫町ヲ隔テテ鹿島郡ニ接シ、西北ハ涸沼川ニ依リ下大野村大字川又平戸ニ対シ、遠ク筑波・加波・足尾・日光・真弓等ノ諸山ヲ望ム。

## 四 地勢

西北ニ高く、東南ニ低ク、四方殆ド河海ヲ以テ繞ラシ、南方ノ海岸ハ人家櫛比シ一ノ市街ヲナセリ。

## 五 氣候

春夏ハ東南風多ク、秋冬ハ西北風多シ。夏甚暑カラズ冬甚寒カラズ。極暑九十度極寒四十度

△註▽

華氏九十度は摂氏三十二度、華氏四十度は四・四度にあたります。

## 六 広表面積戸数人口

広表 東西二十五町十間 南北二十二町三十間

面積 二十九方丁

戸数 二千三百

人口 一二、二六九 男 七、八五八 女 四、六一六

△註▽

「広表」の「表」は「ボウ」と読み、「ひろさ」・「ながさ」を意味します。ここでは「広表」で広がり・幅員という意味で使われています。

△註▽

「人口 一二、二六九」とありますが、「一二、四七四」と追記のような形で訂正されています。

七 官有地

二十二町六反九畝二十一歩

八 御料地

七十四町二反八畝十八歩

九 民有免租地

七十五町一反十三歩

十 私有地租反別

田	三九、七三二〇
畑	一八五、九五〇四
宅地	一一八七、三七六九
山林	一五、九〇一五
原野	四、八四一九
雑種地	四、一八二四
計	二五〇、五九二二

^註V

単位が記載されていません。(「」か「・」かも不明)

十一 市街

磯浜町ハ東西ニ長ク、後ニ高丘ヲ負イ、前ハ一帯袖ヶ浦ニ面シ、街ノ西端直ニ大貫町ト連接シテ恰モ一市街ノ如シ。  
祝町ハ磯浜ヲ西北ニ距ル十五町、東ハ太平洋ニ面シ、北ハ那珂川ヲ隔テテ湊町ヲ望ミ、西ハ願入寺ノ所領ニ接ス。

十二 區劃

文禄二年町名ヲ附セラレシガ、明治九年四月十九日地租ノ改正ト共ニ之ヲ改ムルコト左の如シ。

旭町 一丁目ヨリ五丁目マデ

日ニ象リ名ク

旧明神町及ビー丁目ノ下側

緑町 一丁目ヨリ五丁目マデ

森ニ近キガ故ニ名ク

旧明神町一丁目、二丁目ノ上側及千手町

#### 桂町

一丁目ヨリ五丁目マデ  
月ニ象ル

旧名二丁目、仲町、金澤町、通町、新町

#### 砂町

一丁目ヨリ五丁目マデ  
海岸ニ瀕セルヲ以テ名ク

旧名通町、永町、髭釜町ノ下側

#### 壽町

一丁目ヨリ四丁目マデ  
星ニ象ル、南極星ヲ壽星ト云フ依テ名ク

#### 〇町

旧原  
嘉永六年古渡藤四郎ナルモノ初メテ此ニ移住開墾セルモノニシテ現  
二十二戸アリ依テ名ク

#### △註▽

「〇町」の〇は、女偏と、「而」の下に「大」とい旁から成る字で、「ふたば」と読みます。

#### 祝町

旧名沖ノ洲ト称セシガ、元禄元年祝町ト改ム

### 十三 交通

西南ハ陸路六里ニシテ大貫ヨリ鉾田ニ至リ（乗合馬車ノ便アリ）利根川ヲ  
経テ東京其他ニ通ジ、北ハ湊町ニ達シ且那珂川ニ？（註…判読できず）リテ  
水戸（汽船ノ便）及栃木県那須塩谷二郡ニ達スルヲ得。西北ハ陸路三里ニシ  
テ水戸ニ至ル（乗合馬車ノ往復頗ル繁シ）ヲ得ル等水陸ノ便アリ。

#### 陸路

##### 県道三十二丁

- 一 壽町ヨリ澗沼橋ヲ経テ水戸ニ至ルモノ
  - 二 桂町二丁目ヨリ海門橋ヲ経テ湊町に至ルモノ
  - 三 桂町二丁目ヨリ曲松ヲ通り、大貫ヲ経テ鉾田ニ至ルモノ
- 里通二十三丁

#### 水路

澗沼川、那珂川

### 橋梁

海門橋ハ那珂川ニ架スルモノニシテ、明治二十八年十月竣工。同三十一年三月再架設ス。長サ百二十間 巾三間  
 涸沼橋ハ涸沼川ニ架スルモノニシテ、明治十七年四月竣工。現橋梁ハ第三回ノ架設ニシテ 明治三十八年四月竣工ス。長サ八十四間 巾三間

### 渡船場

渡船場ハ裏船渡、新船渡ノ二カ所アリ

### 郵便電信電話

郵便電信電話ノ設アリテ 電信ハ全国及外国ニ通ジ 電話ハ大貫、鉾田、水戸、太田、湊、平磯、菅谷、東京等ニ通ズ

## 十四 生業

市街一帶海岸ニ瀕セルヲ以テ 漁業甚盛ニ農商之ニ亞ゲ

漁業 六八〇  
 商業 五五四  
 農業 三七五

### 業務別戸数

業体	専業	兼業
農	八八	二八七
工	一〇九	二四
商	四六五	八九
漁	二八八	三九二
力役	五七	一八
銀行会社員	五	八
自由業	四〇	八
其他	一三七	五九
無職	八四	

## 一五 生産物

水産物ノ重ナルモノハ 鰹、鯷、鮪、比良目、鯛、鱈、雑魚及海草等ニシテ、一カ年ノ漁獲高四六万三、二六〇円ノ多キニ達シ、就中鰹、鯷其大部ヲ占ム。

製造品ノ重ナルモノハ 搾粕、鰯油、鰯節、塩辛、清酒、醤油、味噌等ナリ。今重ナルモノノ産額及価格ヲ挙グレバ左ノ如シ。

鰯	七〇、〇五六、〇〇〇尾	一八九、〇〇〇円
鰯	四九四、四五〇貫	七一、六七〇円
搾粕	一、六六八、〇〇〇貫	八、四〇〇円
鰯油	五、五〇〇貫	二、七五〇円
鰯節	五二、〇〇〇貫	二四九、六〇〇円
塩辛	二八六石	八、五八〇円
清酒	六〇三石	二七、一三五円
醤油	七六一石	一九、〇二五円
味噌	一四、四九〇貫	三、九一二円

農産物ノ重ナルモノハ米麦ヲ第一トシ、蔬菜類之ニ次グ。今大正四年度米麦検査数、作付反別、数量、価格ヲ挙グレバ左ノ如シ。

水稻	陸稲	三四	三四	一
	水稻	四一三	四〇五	八
大麦	陸稲	五六九	四四七	一三二
	水稻	一、三二二	一、一五九	一五二
小麦	一、三二二	一、一五九	一五二	

種別	作付反別	数量	価格
米	七二・二	六一七石	一二、一七五円
麦	一七五・〇	二、五八一石	一九、二〇三円
蔬菜類	六五・四	二七六、〇〇貫	一七、四八七円

畜産業ハ未盛ナラズ。牛馬豚鶏等見ルベキモノ甚少シ

牛	一三
馬	二〇
豚	二八
鶏	一、八三三

一六 神社

大洗磯前神社

宮司一、禰宜二、外二

大洗山上ニアリ。文徳天皇斉衡三年十二月ノ創立ニシテ大巳貴命、少名彦命ノ二神ヲ祀ル。明治十八年四月十八日国幣中社ニ列シ 九月九日ヲ以テ鎮守祭日ト定ム。医薬ノ法ヲ定メ給フ。

文徳実録云 斉衡三年十一月戊戌常陸国上言 鹿島郡大洗磯前有神新降初郡民有煮海為鹽 夜半望海光輝屬天 明日有兩恠石見在水次、高各尺許、体於神造非人間石 塩翁私異之去、後一日、亦有廿余小石、在向石左右、似若侍坐、彩色非常、或形像沙門、唯無耳目、時神憑人云、我是大奈母知少比古奈命也、昔造此国訖、去往東海、今為濟民、更亦來歸

元禄三年七月源義公新ニ地ヲ相シ社ヲ建テ、遷宮ヲ行フ。今社ノ中段ナリ。

### 与利幾神社

大洗神社ノ西方ニアリ。安永六年十一月ノ創立ニシテ 大巳貴命ノ第二子建御名方命ヲ祀ル。

安永六年十一月 清水平太夫ナルモノノ漁船 海上ヨリ漂流セル異木ヲ曳キ來ル。後ニ神人ニ憑テ曰ク諏訪明神ノ靈木ナリ。因テ之ヲ祀ルト云フ。

### 天妃神

祝町ニアリ 元禄三年四月源義公ノ創立ニシテ 唐ノ天妃神ヲ祀リシガ源烈公ノトキ弟橘姫ニ改メラレタリ

天妃神ハ唐ノ福建興化林氏ノ女大海ニ没シテ神トナル 神異靈現海ヲ渡ルノ船ヲ守護ス 故ニ天妃ノ尊号ヲ諡トス

天妃神ハ海上風波ノ難ヲ救ヒ玉ノ神ナル故ニ 漁者悉ク信仰ス 弟橘姫ハ日本武尊ノ姫ニシテ 蝦夷御東征ノ折 相模ヨリ上総ニ渡ラントセシトキ 海神ノ怒リヲ静メント海ニ投ジ尊ノ難ヲ救ヒ給フ

註…「元禄三年」は、千六百九十年です。

## 十七 佛閣

### 西福寺

桂町ニアルモノヲ俊明山無量寿院西福寺ヲ称ス 天台宗山門派ナリ 元島田村ニアリシガ 延宝五年十一月 水戸侯光圀ノ命ニヨリ此地ニ移セシナリ

本尊 阿弥陀如来

此寺ハ比叡山ノ恵心僧都ノ開基ナリト云フモ詳ナラズ 中古此地ニ移リシノチノ開山ハ二十五世光海法師ナリ

註…「延宝五年」は、千六百七十七年です。

## 養福院

緑町ニアルモノヲ磐船山養福院観音寺ト云フ 西福寺ノ末寺ナリ

## 願入寺

祝町磐船山ニ在ルモノヲ大綱山恵明院願入寺ト称ス 浄土真宗東本願寺派ナリ

水戸俟光圀ノ創立ニシテ 延宝二年久慈郡久米村ヨリ移ス  
本尊ハ阿弥陀如来ナリ

此寺ハ高祖親鸞聖人ノ孫如信上人ノ遺跡ニシテ 寺格最モ高シ

註…「延宝二年」は、千六百七十四年です。

## 十八 名勝舊跡

### 大洗

東方海中ニ斗出スル三町余ノ岬角ニシテ 大洗山ト大洗下トノ二区ニ分ル  
大洗山ハ海面ヲ抜クコト十数丈ノ小丘ニシテ 老樹山ヲ圍ミ 清泉山腹ヲ流  
レ 海岸ハ岩石屹立シテ 風光明媚県下第一ノ勝地タリ 四季探勝遊客多シ

### 子ノ日ノ原

大洗ノ東北 青松白沙ノ間ニアリ 源烈公ノ屢々来遊セシ所ニシテ 天保  
十二年十月親詠セシ歌ヲ鐫刻セシ碑ヲ建ツ

公ノ詠マセシ歌ヲ刻スル字ヲ其儘ニ

「…」

註…「鐫刻」は「せんこく」と読み、「彫りつける」といういみです。「鐫」

は穴をほる道具である「のみ(鑿)」という意味と、「彫る」という意  
味があります。

註…「天保十二年」は、千八百四十一年です。

### 磐船ノ夕照

願入寺ノ後方涸沼川ト那珂川ノ合流沿岸岩上ニアリ 源烈公ノ撰スル所ニ  
シテ水戸八景ノ一ナリ

### 砲臺

祝町ノ東南海浜ニアリ 此地那珂川ノ口ニ当リ 従来船舶ノ輻輳スル要港



ナリシヲ以テ 攘夷論ノ旺ナル当時国防ノ為メ源烈公ノ築ク所ナリ

### 御臺場

壽町ノ高丘ニアリ 天保年間源烈公此ニ御陣屋ヲ設ケ 海防ノ用ニ備ヘシ  
處ナリ

註…「天保年間」とは、千八百三十年から千八百四十三年の間です。

### 御手洗

大洗境内ニアリ 泉水ヲ溜メタルモノニシテ 水源ハ泉ヶ峯ニアリ

### 眞端ノ橋

中池ノ辺ニアリ 八幡太郎義家奥州征伐ノ際 通過セシ橋梁ナリト言ヒ伝  
フ

### ヨバリ塚

涸沼川ノ辺ニアリ 貞享元禄ノ網業盛ナルノ頃 此塚ニ昇リテ貝ヲ吹キ  
漁夫ヲ呼ビシヨリ名クト云フ

註…「貞享」は、千六百八十四年から千六百八十七年まで、「元禄」は千六  
百八十八年

から千七百三年までです。

### 車塚

其体天子ノ山陵ノ如ク宮車ニ類ス 俗ニ車塚ト呼ベリト 諏訪山中ニアリ  
テ建御名方命ヲ祀ル 一説ニ平貞盛ノ墳墓ナリト

### 八ヶ峯

東ハ養福院 西ハ西福寺ニシテ今又現当谷津ト称ス 此地磯浜ノ市街ヲ見  
下シ風景佳ナリ 殊ニ仲秋月明ノ夜ノ眺ヨク 実ニ天界ニアルノ思アラシム

### 十九 著名ノ磯

海中無数ノ磯アリ 就中著名ナルモノハ久下磯、大磯、長磯、鮫島、雄棚  
家、雌棚家、大甕磯、大島、平太郎磯、南張上、北張上、曝、箱磯等ナリシ  
ガ 久下ノ磯ハ築港工事ノ際使用セラル

### 二十 官衙学校銀行会社

茨城県水産試験場

旭町ノ海岸ニアリ 明治三十三年四月一日開設ニシテ 当初茨城県庁内ニ於テ其事務ヲ取扱ヒシガ 同年五月三日当町ニ移転シ業務ヲ開始セリ。執務ノ方針トスル所ハ 県ノ經濟ヲ興スベキ事項ノ研究ヲ主トシ 學術ノ調査ヲ以テ之ヲ補足シ可成 実利ヲ挙示シテ模範ヲ作ランコトヲ努ムルニアリシガ 先年廃止セラル

### 磯浜郵便局

桂町三丁目ニアリ 明治七年二月五日大貫村ニ於テ開始シ大貫郵便局ト称セシガ 同二十三年十二月九日当町ニ移転シ磯浜郵便局ト改称シ 同三十年八月十一日磯浜郵便電信局ト改メ 同三十六年四月一日再磯浜郵便局ト称ス

通常郵便

明治七年二月五日開始

小包郵便

同 二十六年七月一日開始

電信

同 三十年八月十一日開始

全国 外国 和文

電話

同 四十一年三月十一日開始

為替

同 十年十月十一日開始

貯金

同 十二年二月十日開始

大洗ニ支局ヲ設ケ明治四十一年六月十六日開始ス

### 磯浜町役場

桂町三丁目ニ在リ 明治五年区戸長ノ制出ヅルニ際シ 区長一人戸長二人ヲ置キ 私

宅ニ於テ其事務ヲ執リシガ 明治八年現位置ニ於テ区長一人戸長三人ヲ置キ 事務扱所ト

称ス。

同十一年十一月郡区編制ニ依リ 区長ヲ廃シ戸長一人ヲ置キ 磯浜村戸長役場ト称ス

明治二十二年三月町村制ノ実施ニ当リ 戸長ヲ町長ニ改メ磯浜町役場ト称ス

### 磯浜巡查部長派出所

桂町三丁目ニ在リ 明治六年十月新治県銚田検事出張所ヲ六五〇番官舎ニ設置シ 屯所ト称セリ。同年十二月西福寺ニ移ス。同七年桂町三丁目現位置ニ移ル。同十年水戸警察署磯浜分署ト改称ス。同十二年湊警察署ノ管轄トナ

リシガ 同年再水戸警察署ノ管轄トナレリ。同二十一年改築ス。同三十五年十月湊分署管轄ニ編入 巡査部長派出所トナル。

### 磯浜尋常高等小学校

学級数	十二
尋常科	十一
高等科	一
職員	十三
児童数	六八〇
尋常科	七二一
高等科	三七

△註▽

「児童数 六八〇」には、その横に追記のかたちで「七五八」と訂正があります。

### 磯浜女子尋常高等小学校

学級数	十二
尋常科	十一
高等科	一
職員	十三
児童数	七五三
尋常科	六九三
高等科	六〇

### 在籍児童出席歩合

尋常科	男九七・四一	女九六・四二
高等科	男九三・七四	女九七・〇六
平均	九六・一六	

両校共ニ市街ノ中央山王台ニ在リ 土地高燥眺望絶佳ニシテ 眞ニ校地ニ適セリ

### 両校ノ沿革

明治 七年四月二十八日大洗小学校ト称シ 新町ニ新築開校シ分校ヲ祝町ニ置ク

同 十年一月本校ヲ大洗小学校南校 分校ヲ大洗小学校北校ト称ス

同 十七年三月類焼ニ罹リタルヲ以テ一時祝町ノ郷倉ヲ仮校舎トナシテ  
通学シ

同 十八年五月新築開校ス

同 二十年一月本校ヲ磯浜尋常小学校ト改称シ 分校ヲ合併ス

同 二十六年二月高等科ヲ併置シテ磯浜尋常高等小学校ト称ス

同 二十八年九月山王台ニ増築ス

同 三十年一月旧校舎ヲ山王台ニ改築移転ス

同 年八月二十日高等科ヲ廃シ 更ニ高等小学校ヲ設置シ 一ヲ磯

浜尋常小学校、一ヲ磯浜高等小学校ト称ス

同 三十七年一月磯浜尋常小学校ニ校舎ヲ増築ス

同 四十二年六月二十八日磯浜尋常小学校ヲ男子ト女子トノ二校ニ分テ

磯浜高等小学校ヲ廃シ 尋常小学校ニ高等科ヲ併置シテ男子部ヲ磯浜尋

常高等小学校、女子部ヲ磯浜女子尋常高等小学校ト称ス

### 祝町尋常小学校

学級数 二

職員 二

裁縫教員 一

児童数 八七 男 五四 女三三

明治七年四月二十八日大洗小学校分校ヲ設置開校ス

同 十年一月大洗小学校北校ト称ス

同 二十年一月本校ニ合併セラル

同 二十三年郷倉ヲ改築シテ私立小学校ヲ立テ祝町尋常小学校ト称ス

同 二十六年磯浜町立トナル

### 株式会社磯浜商業銀行

壽町一丁目ニ在リ 明治三十三年十月創立ニシテ 現在資本金十万円株  
数二千株一株金五十円ナリ

### 水戸常盤銀行支店

壽町二丁目ニ在リ 資本金五万円ヲ有ス

### 茨城電気株式会社磯浜出張所

桂町一丁目ニ在リ 資本金六十万円

磯浜漁業組合事務所

砂町一丁目ニ在リ 明治二十五年一月八日認可ニシテ 漁業上ノ改良ヲ計レリ

水戸藩ノ時 漁業ノ事ヲ管理スルモノアリ之ヲ浜庄屋ト称ス。且官ニ於テ分一役ヲ置キ 漁獲セル魚ノ二十分ノ一ヲ税トシテ徴収シ 浜役場ニ於テ其事務ヲ執ラシメシト云フ

逋信省無線電信試験所

子ノ日ノ原ニアリ。逋信省無線電信試験所ト称シ 大正三年ノ創建ニカカリ 平磯トノ間ニ逋信試験ヲナシ 現ニ二本ノ柱仲天ヲ磨ス

二十一 漁船数

三間未満ノモノ	二二二
三間以上五間未満ノモノ	一二八
五間以上發動機ヲ有スルモノ	三二
〃 有セザルモノ	二七

二十二 磯濱築港

明治四十二年十一月一日茨城県会ニ於テ 明治四十三年度総予算案ニ磯濱築港費ヲ加ヘ 工事ヲ説明シツイデ可決セラレ 同四十三年十一月起工式挙行。以来工務ニ着手シ今日ニ及ベリ

工費	東防波堤	一六九、五〇〇円	長一六五間
	西防波堤	一六九、〇〇〇円	長一八〇間
	港内面積	満潮 二五、三〇〇坪	
		干潮 二一、〇〇〇坪	
	船入場	一、五〇〇坪	

二十二 衛生

医師八 薬剤師一 産婆四 ????四 (註：判読できず)

伝染病	種別	患者	死亡
	腸チブス	一	一
	<span style="color:red">質室斯(?)</span>	一	
	ジフテリア	一	

二十三 兵事

在郷軍人	署別		下士	兵卒	補充兵
	陸軍	一〇		一二六	四一四
	海軍			一七	
	金鷄勲章			二	

二十五 諸団体

赤十字社員	一〇二
磯浜町農会	—
磯浜地主会	—
大洗矯風会	—
水難救済博愛同志会	—
愛国婦人会員	六一
帝国在郷軍人磯浜分会	—
青年会	—
磯浜水難救済会	—

二十六 燈臺

磯浜燈臺	水面 四五尺
八ヶ峰燈臺	海拔一二〇尺

二十七 消防

組頭 一	部長 四	小頭 一六	消防手 二〇四	ポンプ 四
------	------	-------	---------	-------

二十八 職員及選挙人

職員	郡会議員 二	町会議員 二四
選挙人	衆議院 一六一	県会 三五五
		郡会 三五五
		町会

二十九 財政及資産

大正二年度	歳入	歳出
一九、九二四、八一九	一九、九二四、八一九	一九、九二四、八一九

大正三年度

歳入	歳出
一九、〇三七、三〇〇	一九、〇三七、三〇〇

町基本財産	
宅地	七三四坪三三 <sup>夕</sup> (?)
山林	七二五、五一七歩
原野	二〇、八一六歩
雑種地	七二五歩
畑	二〇二歩
計	七四七、四〇二歩
	七三四坪三三 <sup>夕</sup> (?)

学校基本財産

宅地	一八二坪四四 <sup>夕</sup> (?)
原野	一、三二三歩
校地	二四、二一三歩
計	?

三十 沿革

往昔宮田村ト称シ 鹿島郡ニ属シ 代々水戸城主ノ所領タリ

延宝七年春磯浜村ト改ム

文禄検地ノ後茨城郡ニ属セシガ 元禄以後再鹿島郡ニ復セリ

元治元年九月水戸国難ノ際全町大概**兵火**ニ罹レリ

明治五年藩ヲ改メテ県トナスニ当リ 新治県ノ所轄トナリ 第三大区十  
区ニ属セリ

明治八年五月同県ヲ廃シテ茨城県ニ合スルヤ 第一大区十三小区ニ属シ

大貫村ト小区ヲ同クセシガ 明十一年十一月郡区再編成ニ依リ 東茨城郡

ニ編入セラレ独立行政区トナル

明治二十二年三月磯浜町ト改ム

註…「延宝七年」は、千六百七十九年です。

註…「元治元年」は、千八百六十四年です。